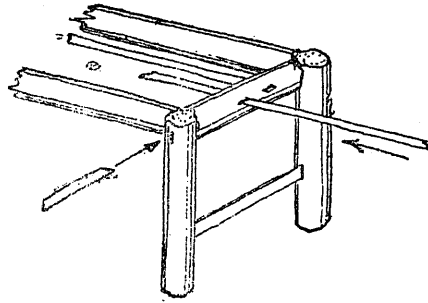


つても作れるには作れるけれども、茲に述べた方法が、工作も容易であり且つ合理的な方法である。



第七圖 きびがら接合略法

然し幼児児童に作

らせるとしては、

先づ四本の脚と主

なる横棧を作らせ

て、然る後に寢臺

の上面の寝る所に

當る皮を併べて作

つた部分其他を作

らせてもよい。斯

くの如き方法は結

果はよくないけれども子供等の心理が斯様に動く場合には無理に合理的な方法に依らしめるの要もない。

ない。

接合部の工作を第七圖に示す如く外部から接合

用の皮を切つたもの或は皮をそのまま材料として

用ふるものを刺して作る方法をとれば、可なりの

變則的な方法によつても大した無理なく出来る。

この場合には若し外側に餘つた部分が突き出て居

る様な時は缺でその部分だけを切りとればよい。

この方法は幼児児童にはやりよい方法である。然

し結果は幾分きたなくなることがある。

幼児にきかせるおはなし

政

衛

十月十一月は運動遠足の季節、十二月は爐邊あたたかに談笑の家庭味豊に……つまらぬ小話も子供にきかせて、少しでもそれによつて軽い温い感じが起ればうれしい。

一、小さい兵隊

或るところに兵隊のすきな坊ちゃんがありました。
た。

「僕兵隊さんになりたいな」

と口ぐせの棲にいひながら、毎日お友達と兵隊ごっこをして居りました。その子供の名は、武夫といひました。

武夫があんまり兵隊さんが好きでしたから、お祖父さんが赤い帽子を、お祖母さんが「ランドセル」を、お父さんが鐵砲を、お母さんが「サーベル」を買つて下さいました。うれしくつて毎日毎日お友達のお敏夫さんと一しよに兵隊ごっこをして遊びました。

「テーテー タツタター タツタ タツタ タ
ーア」

「前へ……進め 一二 一二 一二」

「かけあし オイ」
と元氣よくあそびます。或時どこからか「ラツバ」の音がきこえて参りました。

「やあ！ 「ラツバ」の音！ 兵隊さんだ」

と耳をすまして居た武夫さん、勢よくお家をかけ出しました。まもなく大勢の兵隊さんが、「ズラリ」とならんで通ります。武夫はうれしくつてくたまらない、夢中になつて見て居ると、其時どこかの小さい子供が「ヨチ／＼」と走つて来て、ころびました。「ワア……」といふ泣聲、武夫は「ちらつ」とこれを見て、びつくりしてかけ出し、その子供を抱きおこしてやりました。すると丁度其時そばを通りかゝつた將校が、

「やあ……小さい兵隊、感心々々」

といつてほめました。即座に武夫は

「小父さん、小父さん、僕兵隊さんになれるでせうか」ときこました。將校はにつこりして

「君は立派な兵隊さんよ、弱いものを助けるのは、僕たちよりもゑらい兵隊さんだ。」
とほめました。

一、おしやべりな人

或ところに大層おしやべりな威張屋がありました。何でもしらぬ事はないといふて朝から晩までしやべりつゞけて自慢して居りました。

或時一人の惻憐な人がこの人に向つて、

「あなたは何でも御存知ですが、なせ人間は一つの口と二つの耳とを持つて居るのか、教へていただけませんか」とたづねました。

おしやべり家は思ひがけぬ間なので、「ぼかん」としてだまつて、しばらく考へて居りました。するとお尋ねした人が、

「それでは私がおあなたにお教へいたしませう。それは人は澤山いろ／＼の事を双方の耳からか

き入れてから、わづか一つの口で必要な事だけ話すためなんですよ。」と申しました。

三、金時計はお母様に

或所に感心な子息がありました。お父さんには早くわかれましたが、お母さんは貧乏で、他家の洗濯物や仕立物をして、生計を立てて居りました。苦しい中から學校だけは通はして貰ひました。學校では先生のいはれることをよく守り、よく覺えて忘れない、家へかへつてはしつかり復習をして一生懸命です。お母様に口返しをしたことなどはありません、何時でもハイ／＼と腰軽くお手傳もいたします。それでゐて學校の成績は何時も優等で一番でした。小學校、中學校、高等學校、大學とだん／＼上の學校まで勉強していよ／＼卒業といふことになりました。

「お母様今度の卒業式には來て下さいね！ 私

がこうして卒業さしていただけるのもお母様のおかげですもの」とたのみました。

お母様はよそのお母様のやうに着かへて行くよ
い着物もありませんけれど、可愛い息子のいふこ
とですから出かけました。

息子はよろこんで、お母様の手をとつて美しい
着物や洋服などを着て居る人たちの間に座らせ、
自分は卒業生の席につきました。

やがて式が始まり順番が来て、息子が卒業演説
をはじめました。それは、實に立派なものでし
た。そして一番は賞品の金時計を授けられました。

観て居た人は皆感心してこのやうな息子を持つた
親は幸福だとうらやみ手をうつてほめました。

息子は式がすんでから大いそぎでお母様の所に
まわり

「お母さん、これはあなたのものです、あなた
のおかげで、もらへたのです！」

といつて金時計をわたしました。

この光景を見て居つた多くの人たちは、このお
母様のうれし涙と息子の笑顔とをながく、忘れ
ることが出来ませんでした。

